日露戦後文学の研究 下

平岡敏

日露戦後文学の研究 下

江苏工业学院图书馆
藏书章

平岡敏夫著

有精堂

日露戦後文学の研究（上・下）

ISBN 4-640-30572-9　C 3091

著者略歴
昭和五年、香川県に生まれる。東京教育大学大学院博士課程修了。現在、筑波大学文芸・言語学系教授。
〈著書〉『北村透谷研究』（昭42・有精堂）『日本近代文学史研究』（昭44・有精堂）『続北村透谷研究』（昭46・有精堂）『日本近代文学の出発』（昭48・紀伊国屋書店）『漱石序説』（昭51・塙書房）『明治文学史の周辺』（昭51・有精堂）『芥川龍之介』（昭57・大修館）『北村透谷研究　第三』（昭57・有精堂）『短篇作家国木田独歩』（昭58・新典社）

日露戦後文学の研究一下
昭和六十年七月二十日　初版発行

著作者　平岡敏夫
東京都千代田区神田神保町一ノ三九
発行者　山崎誠
東京都文京区後楽二―二二―二
印刷所　株式会社文巧社
製版・海外印刷（株）

発行所　有精堂出版株式会社
東京都千代田区神田神保町一ノ三九
電話東京（二九一）一五二一～三
振替口座　東京九―四〇六八四番
郵便番号　一〇一

◇落丁・乱丁はおとりかえいたします。

© Toshio Hiraoka, 1985
ISBN 4-640-30574-5
Printed in Japan

【上巻　内容目次】（副題省略）

序にかえて——日露戦後文学

序　説

第一章　日露戦後文学序説

第一節　「国民的精神の一頓挫」

第二節　「戦後文界の趨勢」

第三節　「小説壇の新気運」

第四節　「日露戦争以後思想界の浮華動揺」

第二章　日露戦後文学『破戒』

第一節　戦中と戦後

第二節　同時代批評・研究史

第三節　告白の場面

第四節　日露戦後文学の先取

第一部　三つの轢死

序　章　日露戦後文学と轢死

第一章　江見水蔭『蛇窪の踏切』

第一節　『蛇窪の踏切』と日露戦後

第二節　日露戦後

第三節　「亡び行く者の心理」

第四節　轢死のイメージと水蔭

第二章　国木田独歩『窮死』

第一節　「あの時分」という発想

第二節　連帯と孤立

第三節　「轢死する人足の心もち」

第四節　『窮死』と『飯屋』『駅夫日記』

第三章　夏目漱石『三四郎』

第一節　轢死の設定

第二節　轢死の衝撃

第三節　日露戦後の東京

第四節　「現実世界」の二重構造

第五節　美禰子の結婚

第二部　青年のゆくえ

序　章　青年のゆくえ

第一章　正宗白鳥『何処へ』

第一節　白鳥と日露戦後

第二節　『何処へ』と戦後の青年像

第三節　『何処へ』の構造

第四節　『何処へ』の方向

第二章　野上臼川『赤門前』

第一節　臼川と『赤門前』

第二節　『何処へ』と『赤門前』『破戒』

第三節　『三四郎』と『赤門前』

第四節　『それから』と『赤門前』
第五節　『門』と『崖下の家』『着港前』
第三章　夏目漱石『それから』
第一節　〈何処へ〉の問い
第二節　「三年前」
第三節　「渝らざる愛」
第四節　代助の運命
第四章　森鷗外『青年』
第一節　啄木・白鳥・鷗外
第二節　『平凡』と『青年』
第三節　『青年』と『何処へ』『動揺』
第四節　『青年』『雁』『灰燼』

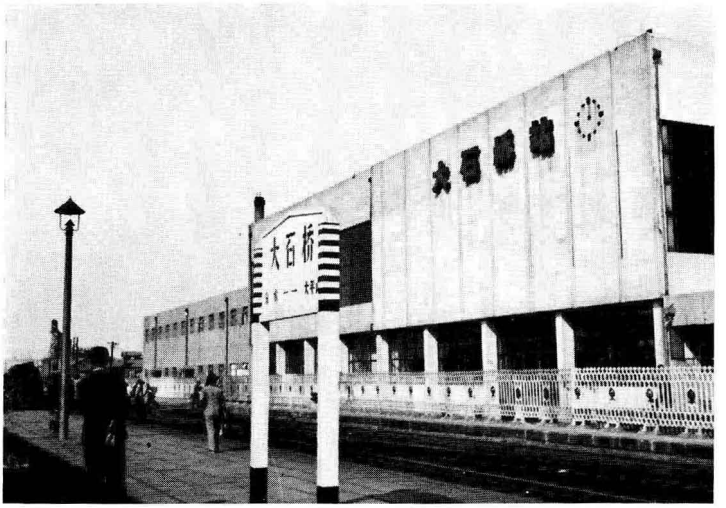
第三部　青年と死

序章　死に至る青年像
第一章　島崎藤村『春』
第一節　透谷追想
第二節　『並木』と『春』
第三節　『春』と『黄昏』
第四節　青木の死
第五節　岸本の生
第二章　田山花袋『田舎教師』
第一節　『蒲団』と日露戦後の青年像
第二節　『田舎教師』のモチーフ
第三節　『田舎教師』の構造
第四節　清三の死と『一兵卒』
第三章　徳冨蘆花『寄生木』
第一節　『寄生木』と稿本「寄生木」
第二節　良平像の基盤
第三節　良平像の展開
第四節　『寄生木』と大杉栄『自叙伝』
第五節　『寄生木』と日露戦後
第四章　森鷗外『羽鳥千尋』
第一節　無名青年の死と鷗外
第二節　『羽鳥千尋』の方法
第三節　鷗外の文体
第四節　羽鳥千尋への哀惜

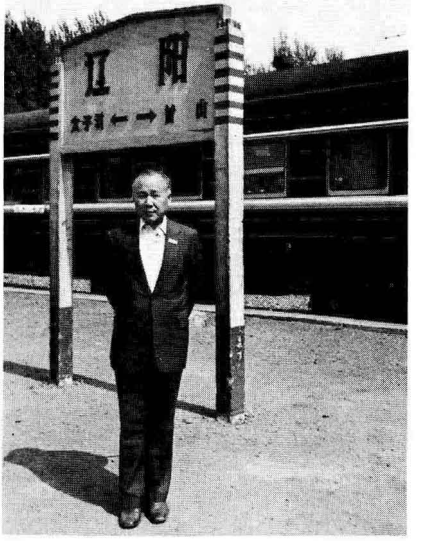
此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

日露戰史（著者藏）
〈本文一七頁參照〉

猪熊敬一郎著『鉄血』（著者藏）口絵写真〈本文9頁参照〉

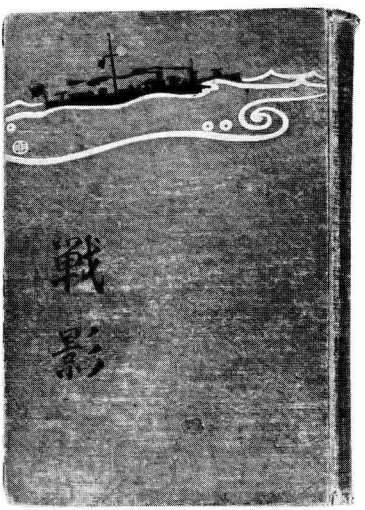


大石橋駅（著者撮影）〈本文46，84頁参照〉



遼陽駅ホームにて（著者）
〈『田舎教師』『うた日記』『第二軍従征日記』参照〉

「前肉弾」所載・桜井忠温著『草に祈る』(著者蔵)〈本文96頁参照〉



一海軍中佐(水野広徳)著『戦影』(著者蔵)
〈本文一三五頁参照〉

漱石が分家・移籍した北海道・岩内（著者撮影）〈本文181頁参照〉

荷風「監獄署の裏」付近の刑死者慰霊碑（著者撮影）〈本文四一九頁参照〉

日露戦後文学の研究—下

目　次

第四部　戦場の記憶

序　章　日露戦記文学……五

第一章　森鷗外『うた日記』……一三

第一節　『うた日記』への視座……一三

第二節　『うた日記』の構成……一七

第三節　南山のたたかいの日に……二七

第四節　遼陽・沙河会戦……四一

第五節　「陣中の竪琴」の終焉……五七

第二章　田山花袋『第二軍従征日記』の周辺……七一

第一節　三つの『敵襲』……七一

第二節　〈死〉の体験と方法……七五

第三節　〈死〉の短篇群――『軍の音』『死屍』『死』――……八〇

第四節　〈死〉への方法的凝視の過程……八六

――『島の望楼』『莫逆の友』『隣室』『一兵卒』――

第三章　桜井忠温『肉弾』……九五

第一節　『前肉弾』と『肉弾』――戦記文学の方法――……九五

第二節　〈肉弾〉のイメージ……一〇三

第三節　『肉弾』と日露戦後文学……一一〇

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第四章　水野広徳『此一戦』……一二六
第一節　『反骨の軍人・水野広徳』……一二六
第二節　『此一戦』と『明治三十七八年海戦史』……一三〇
第三節　『此一戦』の肉体破砕のイメージ……一三八
第四節　『此一戦』と『戦影』……一三五
第五章　もうひとつの『うた日記』……一四六
第一節　土肥原三千太『日露戦役日記』……一四六
第二節　〈公私〉のうた……一五〇
第三節　肉体破砕の光景……一五四
第四節　下級将校・下士官・兵の日記……一五六

第五部　家と家庭

序章　家と家庭……一六七
第一章　夏目漱石『坊つちやん』『それから』『門』……一七八
第一節　家の崩壊……一七八
第二節　家と家庭のはざま(一)――『坊つちやん』――……一八一
第三節　家と家庭のはざま(二)――『それから』――……一八七
第四節　家と家庭――『門』を中心に――……一九三

第二章　田山花袋『生』『妻』『縁』……一九八
第一節　『老　母』――『生』の原型――……一九八
第二節　『一家の妻』から『一家の主人』へ……二〇三
第三節　「新しい宅」の幻想――『兄』を中心に――……二〇八
第四節　『生』――「骨肉の一家」の記憶――……二一三
第五節　『妻』――『生』『春』と関連して――……二一九
第六節　『妻』と『縁』――日露戦後の家庭――……二二七
第三章　森　鷗外『半日』……二四〇
第一節　『生』『妻』『縁』と『半日』……二四〇
第二節　『半日』の方法……二四四
第三節　鷗外と「家庭」――『半日』と『生』――……二四九
第四節　日露戦後の家庭――『半日』と『縁』――……二五四
第四章　島崎藤村『家』……二五九
第一節　『家』と『生』……二五九
第二節　『家』と『妻』――〈隠れ家〉をめぐって――……二六四
第三節　夫婦――『家』と『行人』……二七一
第四節　性――〈家〉への遡行……二七七
第五章　伊藤左千夫『分家』……二八二

第一節　〈分家〉の文学……二八二
第二節　〈純愛〉と〈余儀なき結婚〉……二八四
第三節　『真面目な妻』と鷗外『雁』――相反する「家庭」へのベクトル――……二八八
第四節　『土』と『分家』……二九二
第五節　本家と分家……二九八
第六節　分家の自立と崩壊――家庭小説・自然主義小説を超えて――……三〇二

第六部　国家と文学

序　章　国家と文学……三一

第一章　石川啄木『時代閉塞の現状』前後……三一七
第一節　日露戦後の啄木……三一七
第二節　『事ありげな春の夕暮』――啄木・明治四十二年――……三三〇
第三節　『時代閉塞の現状』へ――小説『道』『我等の一団と彼』――……三四六
第四節　『時代閉塞の現状』(一)――大逆事件・折蘆・国家と青年――……三五四
第五節　『時代閉塞の現状』(二)――自然主義論・「九月の夜の不平」「歌のいろ〳〵」――……三六五
第六節　『呼子と口笛』の問題……三七六

第二章　永井荷風『歓楽』……四〇四
第一節　荷風の〈挑戦〉――『歓楽』の構造――……四〇四

第二節　国家と文学(一)――『欲楽』と『祝盃』――……四〇八
第三節　国家と文学(二)――『監獄署の裏』――……四一六
第四節　『すみだ川』『冷笑』……四二三
第三章　上田敏『うづまき』……四二八
第一節　日露戦後における上田敏の思想……四二八
第二節　『うづまき』へのアプローチ……四三三
第三節　文明批評――〈閉塞〉のなかの渦巻――……四三七
第四節　恋愛――積極的享楽主義へ――……四四三

日露戦後文学の終結

第一章　森鷗外と明治の終焉……四五七
第一節　崩御と殉死――鷗外と漱花――……四五七
第二節　明治の終焉――『肉弾』『銃後』にふれつつ――……四六一
第二章　『こゝろ』と明治の終焉……四六五
第一節　「先生」と明治の終焉……四六五
第二節　漱石と明治の終焉……四六八
第三章　日露戦後文学の終結……四七四
第一節　日露戦後の終焉――青島攻略――……四七四

第二節　日露戦後文学の終結……四八一
あとがき……四九一
人名索引――筆者別論文・作品・著書名索引――……(1)
事項索引……(18)

日露戦後文学の研究

（下）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com